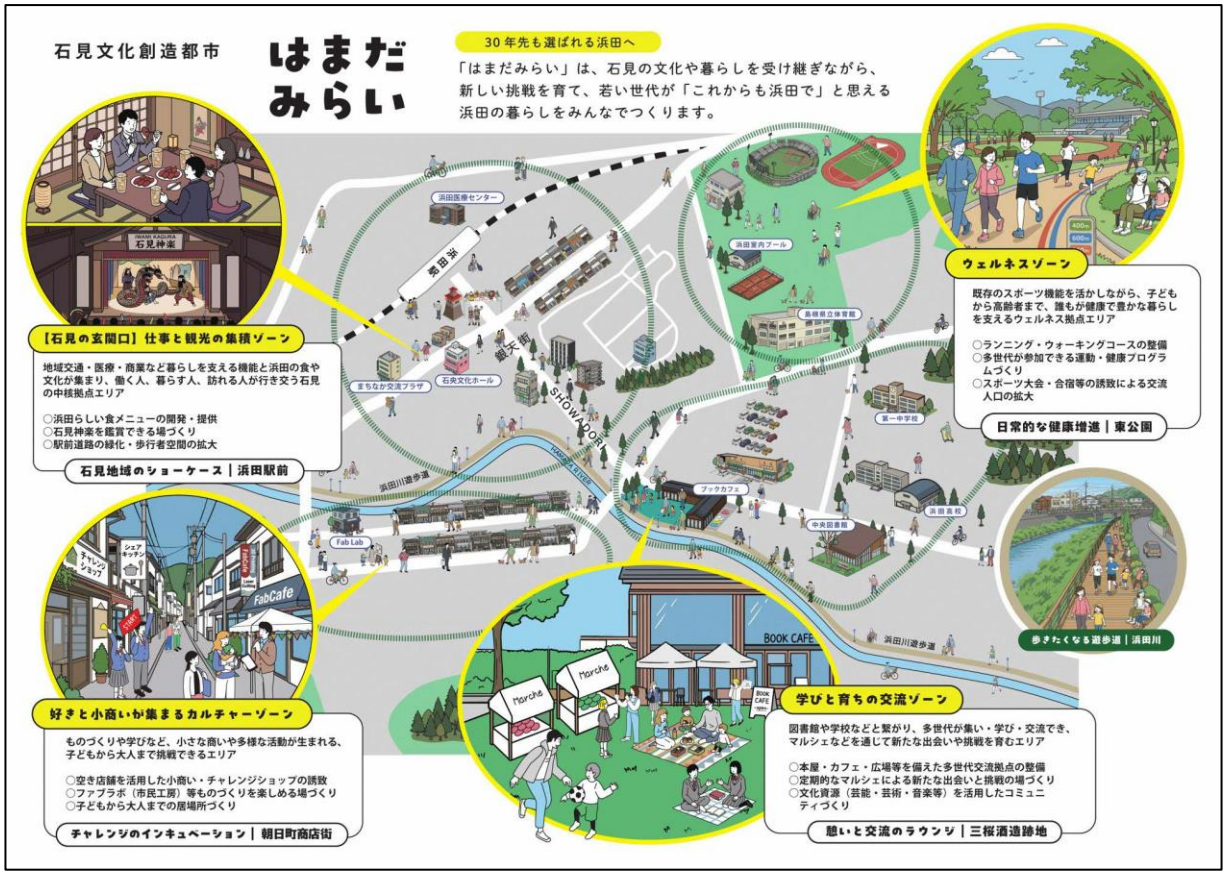
補足資料

浜田駅周辺グランドデザイン
「石見文化創造都市 はまだみらい」(案)について

～ グランドデザインの考え方と今後の進め方 ～

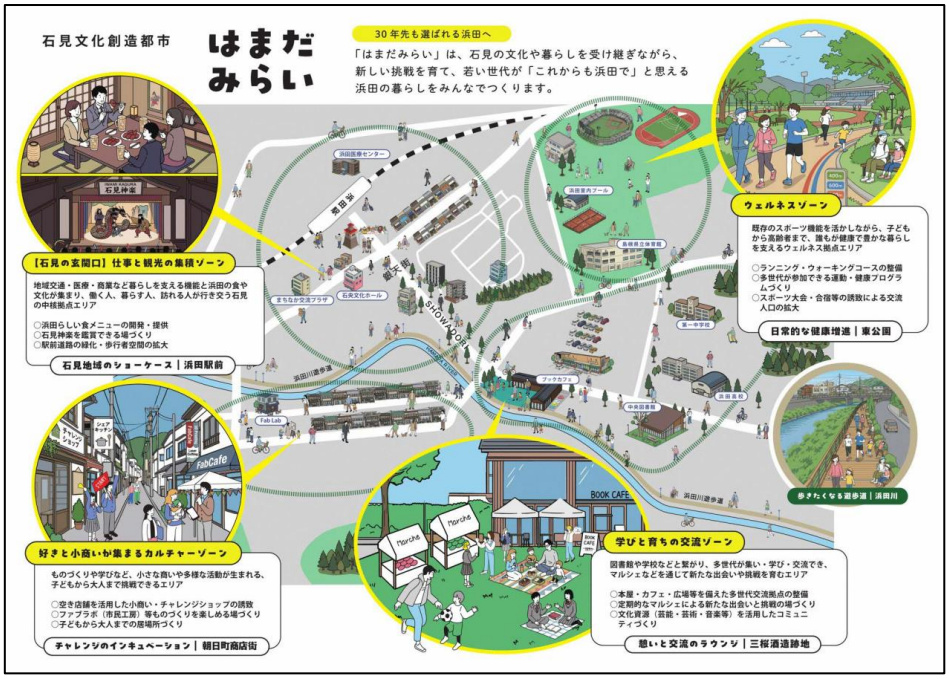
この資料は、パブリックコメント（意見公募）の実施にあたり、市民の皆さまに内容を理解していただくためのものです。



浜田市産業経済部浜田駅周辺活性化推進室

1　浜田駅周辺グランドデザインとは

浜田駅周辺グランドデザインは、浜田駅周辺の将来のまちの姿や、まちづくりの方向性を示すものです。駅、商店街、三桜酒造跡地、浜田川、東公園など、駅周辺に点在する場所や施設を４つのゾーンという考え方でつなぎ、それぞれのエリアで目指す姿と、今後考えられる取組の方向性を示しています。



※グランドデザインに示す取組は、現時点で整備・実施が確定しているものではありません。今後、必要性や効果、事業費、財源、民間事業者の参画可能性、市民の意見等を踏まえ、具体的な事業化を検討していきます。

2　なぜ、浜田駅周辺のグランドデザインをつくるのか

浜田駅は、市内外から多くの人が訪れる浜田市の玄関口です。駅周辺には、商店街、文化施設、学校、公園、医療施設などが集積しており、まちの中でも特に多様な機能が集まるエリアとなっています。

一方で、それぞれの施設やエリアが十分につながっておらず、行き来や回遊が生まれにくいという面があります。また、空き店舗や未利用地など、まちなかの活力を高めていくうえでの課題も見られます。こうした状況を踏まえ、駅前・商店街・三桜酒造跡地・浜田川・東公園といった個々の場所を単独で考えるのではなく、駅周辺全体を一体的に捉え、将来どのようなまちにしていきたいかを示すため、グランドデザインの検討を進めています。

グランドデザインは、「新しい施設をつくること」だけを目的とするものではありません。現在ある施設・場所・人・文化などをつなぎ、そこから新しい活動や交流が生まれるまちを目指すための将来像として位置付けています。

3　将来像「石見文化創造都市　はまだみらい」

グランドデザインでは、浜田駅周辺の将来像を

「石見文化創造都市　はまだみらい」として掲げています。

「はまだみらい」は、石見の文化や暮らしを受け継ぎながら、新しい挑戦を育て、若い世代が「これからも浜田で」と思える浜田の暮らしをみんなでつくります。

グランドデザインに描く将来像は、次のような考え方を駅周辺という具体的な空間に落とし込んで示したものです。

石見の文化を受け継ぐ	石見神楽をはじめとする地域の文化や暮らしの魅力を大切にする
新しい挑戦を育てる	小さな商いやものづくりなど、新たな活動が生まれる環境をつくる
人が集まり交流する	多様な人が行き交い、出会い、交流できる場を増やす
暮らしを楽しむ	日常の中で健康づくりや文化に触れられる機会を増やす
市民・事業者・行政等が関わる	まちづくりを行政だけでなく、市民や事業者とともに進める

4　浜田駅周辺を 4 つのゾーンで考える理由

ゾーン	対象エリア	基本的な考え方
石見の玄関口 仕事と観光の集積ゾーン	浜田駅前	仕事・観光・食・文化の玄関口
好きと小商いが集まる カルチャーゾーン	朝日町商店街	小商い・ものづくり・交流
学びと育ちの交流ゾーン	三桜酒造跡地	学び・文化・多世代交流
ウェルネスゾーン	東公園	健康・スポーツ・日常の憩い

4 つのゾーンは、それぞれを別々ではなく、浜田駅、朝日町商店街、三桜酒造跡地、東公園、浜田川沿いなどが、「歩く」「回遊する」「滞在する」「活動する」

「交流する」という関係でつながることで、駅周辺全体として一つのまちの魅力になることを目指しています。

なお、浜田川沿いの遊歩道は、駅周辺を「歩く」「回遊する」ことを支える軸にしたいと考えています。

5　各ゾーンで考えられる取組の方向性

①【石見の玄関口】仕事と観光の集積ゾーン／浜田駅前

グランドデザインで示している方向性

地域交通・医療・商業など暮らしを支える機能と浜田の食や文化が集まり、働く人、暮らす人、訪れる人が行き交う石見の中核拠点エリア

○ 浜田らしい食メニューの開発・提供

○ 石見神楽を鑑賞できる場づくり

○ 駅前道路の緑化・歩行者空間の拡大

なぜ、この方向性なのか

浜田駅は観光客だけでなく、通勤・通学や買い物など、市民も日常的に利用する場所です。観光と日常の交流・活動の双方につながる場所にしていくことを目指しています。

石見神楽については、交流・観光の場づくりを考えているもので、特定の施設整備を決定しているものではありません。

②　好きと小商いが集まるカルチャーゾーン／朝日町商店街

グランドデザインで示している方向性

ものづくりや学びなど、小さな商いや多様な活動が生まれる、子どもから大人まで挑戦できるエリア

○ 空き店舗を活用した小商い・チャレンジショップの誘致

○ ファブラボ（市民工房）等、ものづくりを楽しめる場づくり

○ 子どもから大人までの居場所づくり

なぜ、この方向性なのか

行政が商店街を一括して整備するという考え方ではありません。既存の店舗や空き店舗、商店街で活動する人たちを生かしながら、新しい挑戦が生まれる環境をつくることを目指しています。

③　学びと育ちの交流ゾーン／三桜酒造跡地

グランドデザインで示している方向性

図書館や学校などと繋がり、多世代が集い・学び・交流でき、マルシェなどを通じて新たな出会いや挑戦を育むエリア

○ 本・カフェ・広場等を備えた多世代交流拠点の整備

○ 定期的なマルシェなどによる新たな出会いと挑戦の場づくり

○ 文化資源（芸能・芸術・音楽等）を活用したコミュニティづくり

なぜ、この方向性なのか

三桜酒造跡地では、文教ゾーンと商業ゾーンの結節点に位置するため、本・カフェ・広場・マルシェ・文化芸術・多世代交流といった機能や活動を組み合わせることで、多世代が集い、学び、交流できる拠点として新たな出会いや挑戦を育む交流拠点としての可能性を検討していきます。

三桜酒造跡地は、他のエリアに先行して検討を進めています

三桜酒造跡地は、令和 5 年度の三桜酒造跡地公共活用検討委員会からの提言、令和 6 年度の現状分析・調査、令和 7 年度の社会実験、今回のグランドデザイン策定に向けたヒアリング、市民アンケート調査結果など、これまで多くの検討の積み重ねをもって、上記方向性をお示ししたところです。

こうした経過を踏まえ、三桜酒造跡地については、他のゾーンに先行して、令和 8 年度中にサウンディング型市場調査（※）を実施し、民間事業者の意見を伺いながら、具体的な機能・事業手法・官民連携の可能性を検討します。あわせて、基本計画の策定に向けた予算措置についても今後検討します。

※サウンディング型市場調査：事業検討段階に民間事業者と直接対話し、事業への参入意向などを把握するための情報収集手法

※これは、三桜酒造跡地の整備が決定したことを意味するものではありません。サウンディングの結果は令和 8 年 12 月頃に公表する予定です。サウンディング調査の結果は、今後のグランドデザインの具体化を検討する材料とし、パブリックコメント等でいただくご意見とあわせて、必要な見直しを行った上で、他のゾーンと同様に、必要性・効果・事業費・財源等を踏まえて事業化を判断していきます。

④　ウェルネスゾーン／東公園

グランドデザインで示している方向性

既存のスポーツ機能を活かしながら、子どもから高齢者まで、誰もが健康で豊かな暮らしを支えるウェルネス拠点エリア

○ ランニング・ウォーキングコースの整備

○ 多世代が参加できる運動・健康プログラムづくり

○ スポーツ大会・合宿等の誘致による交流人口の拡大

なぜ、この方向性なのか

東公園は、競技スポーツのためだけの公園とするのではなく、子どもから高齢者まで、日常的に歩く・走る・遊ぶ・健康づくりをする場所として活用することを目指しています。

6　グランドデザインに描いてあることは、確定事項なのか

グランドデザインは、現時点で全ての施設整備を確定している計画ではありません。描かれている内容には、次のように今後検討していくものが含まれています。

①　現在の方針として示していること

・「はまだみらい」の将来像
・4 ゾーンの考え方
・各ゾーンの役割
・駅周辺をつなぐ考え方

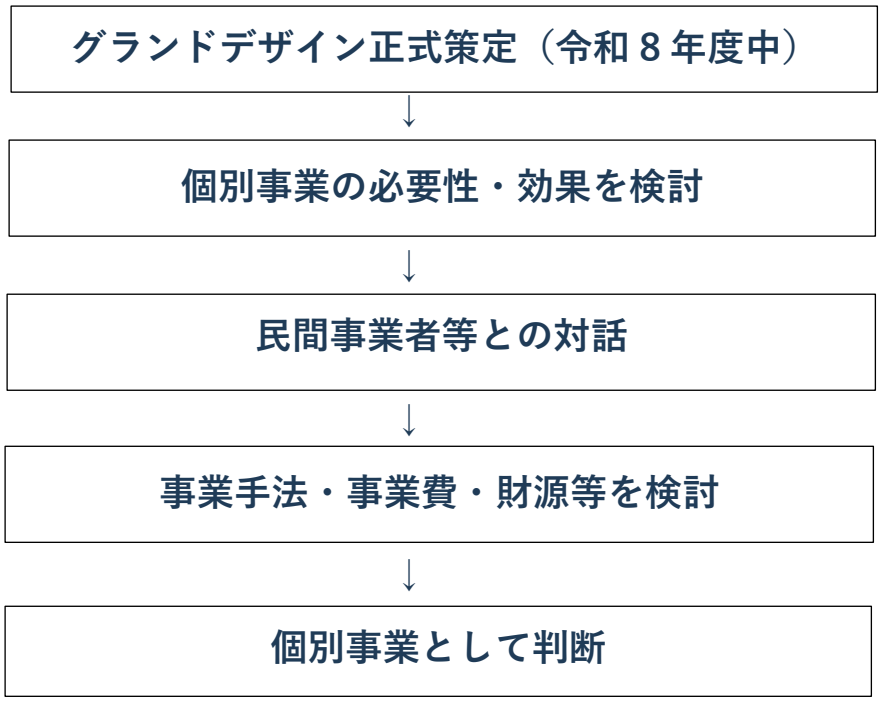
②　今後、具体化を検討すること

・駅前空間の活用
・朝日町商店街におけるチャレンジの場づくりの内容
・三桜酒造跡地における多世代交流拠点の内容
・東公園における健康増進の場づくりの内容
・浜田川沿いの遊歩道整備

③　個別事業として決定する段階で検討すること

・施設規模
・整備方法
・事業費
・財源
・民間事業者の参画
・運営主体
・維持管理方法

7　これから、どのように具体化していくのか



グランドデザインの具体化に向けて、短期・中期・長期の段階で取組を進めます。現時点で具体的な整備時期を決めるものではなく、個別事業の検討・実施を重ねながら、必要に応じて計画を見直していきます。

8　事業費や財源はどう考えるのか

現時点では、グランドデザイン全体としての総事業費は確定していません。

総事業費が確定していない理由

○　個別の施設内容が決まっていないこと
○　整備するかどうかも含めて、今後検討するものがあること
○　整備方法が決まっていないこと
○　民間事業者の参画可能性が決まっていないこと
○　財源構成が決まっていないこと
○　運営方法・維持管理方法も決まっていないこと

今後の考え方

今後、個別事業を具体化する段階で、必要な事業費、財源、費用対効果、維持管理費等を検討し、事業実施の判断を行います。事業費や財源については、具体化の検討状況に応じて、改めて市民の皆さまにお示ししていきます。

参考：市民の皆さんの声をグランドデザインに反映しています

■ ヒアリングについて

このグランドデザインの素案の策定にあたっては、商店街関係者、飲食事業者、不動産事業者、観光関係者、水産関連事業者、文化・教育関係者など、54 件のヒアリングを実施しました。

ヒアリングでいただいた意見	グランドデザインへの反映例
駅前で浜田らしさを感じられるものが必要	食・石見神楽等
空き店舗を活用したい	チャレンジショップ
若者が活動できる場所がほしい	ものづくり・交流の場
子どもから高齢者まで集える場所がほしい	三桜酒造跡地
日常的に健康づくりができる場所がほしい	東公園

■ 市民アンケート調査について

浜田市総合振興計画の策定にあたり実施した市民アンケート調査（市内在住の 18 歳以上 514 人から回答、令和 8 年 7 月 8 日～31 日実施）でも、浜田駅周辺エリアについてご意見を伺いました。

「浜田駅周辺に期待する役割」は地区・年代を問わず「飲食・グルメ拠点」「商業・買い物拠点」が 1 位と 2 位を占め、3 位には「観光拠点」が多く選ばれました。拠点ごとに特に回答割合が高かったものは次のとおりです。

拠点	特に回答割合が高かったもの
飲食・グルメ拠点	カフェ・ファストフード店、浜田グルメ飲食店
商業・買い物拠点	マルシェ・朝市スペース、衣料品・雑貨のミニモール
観光拠点	浜田グルメ飲食店、土産物・特産品ショップ
滞在・交流拠点	芝生広場・公園、ゆっくり過ごせるカフェ・書店
教育・子育て拠点	子どもが遊べる芝生広場・屋内施設

グランドデザインは、こうした地域の声を踏まえて作成したものです。今回のパブリックコメントでいただいたご意見は、グランドデザイン案の見直しにあたって参考にするとともに、策定後の具体化や個別事業の検討にも活かしていきます。